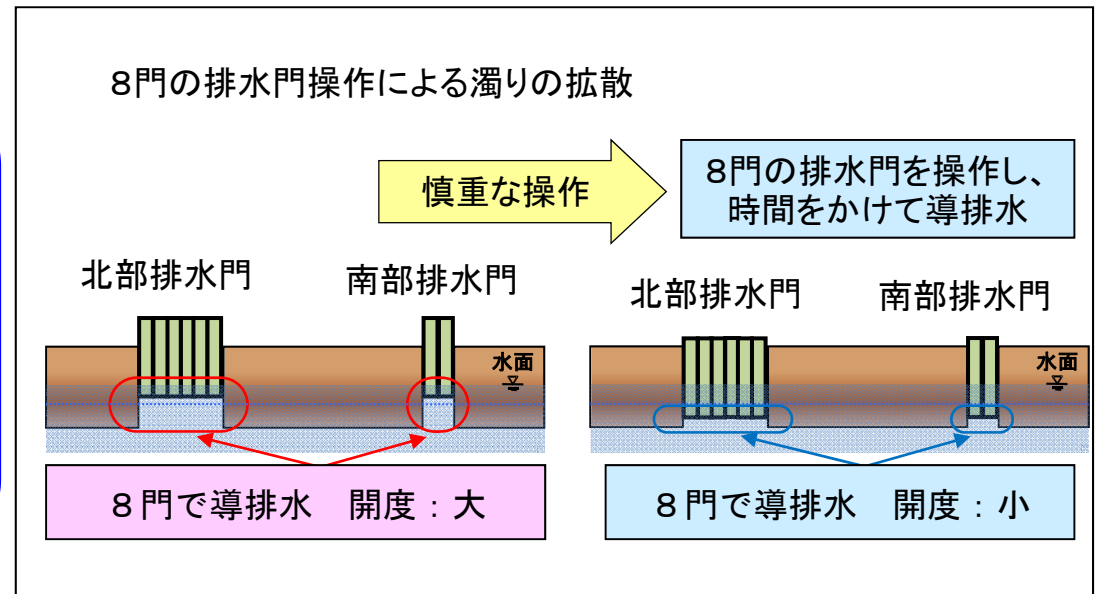


アセスと条件が異なる開門方法であり、アセスをやり直す必要がある。

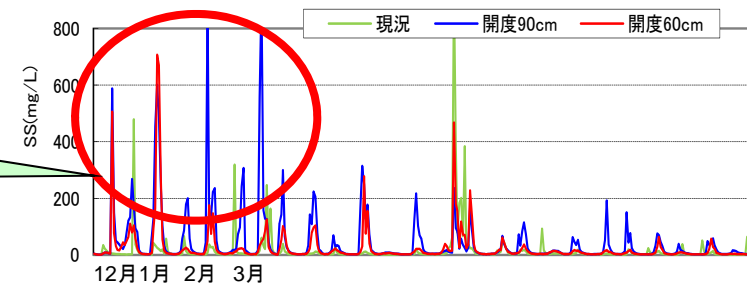
- 1 8門の排水門をゆるやかに操作することを5年間行うのであれば、アセスの条件が変わり、潮流や水質等の変化そのものが変わってくることになるため、アセスをやり直す必要がある。
- 2 国のシミュレーション結果では、12月に開門した場合、開門当初の冬、春に現況より濁りが大きく、カキの成育に影響の恐れがある。
- 3 国のシミュレーションでは、濁りのピークのみで評価しているが、実際には、底泥の洗掘量が増加することや、濁りが生じる時間が長くなることも漁業に影響を及ぼす恐れを考慮する必要がある。
- 4 汚濁防止膜の設置により濁りが削減されるとしているが、これは一部の地点のみであり、逆に濁りが増加するアサリ漁場も明らかにされている。

国の考え

- 1回毎の海水導入・排水が、時間をかけて徐々に行われるよう、常時開門期間中、8門の排水門をゆるやかに操作し、濁りの発生を抑制。
- 8門の排水門を60cm(環境アセスでは90cm)とした場合の濁りの抑制効果についてシミュレーション検証し、濁りの最大値で判断。
- 国は、シミュレーション結果より、排水門の開度を抑えることで、現況よりも最大値は概ね低減され、漁業への影響はないとの結論。



北部排水門前面 (S1地点) 付近、底層の濁りSSの経時変化



開門当初の冬、春に現況より濁りが大きくカキ生育時期への影響